

## Jリーグ選手協会の役割に関する研究

### A study about the function of J.LEAGUE Pro-Footballers Association

トップスポーツマネジメントコース

5007A301-7 赤木俊二

研究指導教員： 平田竹男教授

本研究においては、日本プロサッカーリーグ(以下、Jリーグ)に所属するプロ選手で構成しているJリーグ選手協会(以下、JPFA)の現状を把握し、JPFAの役割及び活動についての問題点を明らかにすることを目的とする。

そのために、まず第3章ではJPFAの現状を分析し、これまでのJPFAが果たしてきた活動の功績を明らかにする。その結果、JPFAの主な活動としては、キャリアサポートセンター(以下、CSC)の設立や、最低年俸制度の導入、社会貢献活動、中間法人化など、JPFAとして、ある一定の役割は果たしてきたことが分かった。

また、JPFAの現状分析していく上で、設立の3年後にはCSCをJPFAが統合するということがあったが、未だにCSCの機能はJリーグ事務局内にあるという問題が明らかになった。

次に第4章では、JPFAが参考とすべき、世界最古のプロスポーツ選手組合であるイングランド選手協会(以下、PFA)の現状分析を行ない、これまでのPFAが果たしてきた活動の功績を明らかにすることができた。PFAの主な活動としては、放映権料の分配金の獲得や報酬上限枠の撤廃、保留制度・移籍制度の撤廃、キャリアサポート組織 The Footballers' Further Education & Vocational Training Society(以下、FFE&VTS)の開始、退職金制度・年金制度の設立など、世界最古のプロスポーツ選手の選手組合として、選手の社会的地位の権利(保留・移籍制度の撤廃)、利益の保護(報酬上限枠の撤廃・福利厚生制度の充実)の役割を果たしてきたことが分かった。PFAでは、その目的と役割が明確にあったため、イングランドサッカー協会(以下、FA)やプレミアリーグ機構側に財源確保の要求が可能であり、PFAの発展は、プロサッカー選手を「労働者」と認めていたことで、選手の権利獲得を明確な目的とした結果であることが分かった。

そして、1979年に設立したFFE&VTSは、PFA、FA、プレミアリーグ機構、フットボールリーグ機構の4団体が提携して設立し、選手のセカンドキャリアを担当していることが分かった。イングランドにおけるキャリアサポート制度の特徴は、PFAの理念でもある「選手経験者は、一生PFAのメンバーである。」という考えで活動していることで、イングランドでプレーするプロサッカー選手をサポートする仕組みができていたことが分かった。

また、上記の現状把握を補完するために第5章では、CSCの統合問題を中心に、JPFA事務局長加藤

富朗氏、Jリーグ事務局常務理事佐々木一樹氏、CSCプロジェクトリーダー八田茂氏にインタビュー調査を行なった。3名のインタビュー結果として、「現状のJリーグ事務局とJPFAの関係には、それぞれ満足しておらず、コミュニケーションが不足している」ことや、「CSCが設立されて6年が経過し、CSCの活動内容や方向性について、再考する時期に来ている」などといった問題点が明らかになった。そして、「CSC統合の主導権は、JPFAにあるが」「選手たちが、CSCの活動に満足しておらず自分たちのための組織だという認識が低い」ことが分かった。

そして、今後のJPFAの方向性を考える上で、JPFA藤田俊哉選手会長に、インタビューを行い、これからのJPFAの役割について考察を行なった。藤田会長がインタビューの中で、「もっと選手からの意見が集まる組織にしていかなければならない。多くの選手が自分の組織と思えるJPFAにしていきたい。」と話したように、JPFAの現状はまだまだ発展途上の組織であることが分かった。

以上の結果を踏まえて、第6章ではJPFAの役割と将来への課題について考察を行った。

今後、JPFAが発展していくためには、会員である選手がもっとJPFAに関心を持ち、また選手自らが選手環境を良くしていく組織への変革が必要と言える。選手が問題意識をもっていない限り、JPFAは存在意義を成さないことと言える。だからこそ、JPFAの運営に携わる事務局スタッフが、新しいアイデアと情報を常に提供し、藤田会長はじめ執行部に対して、現状の問題点を把握させ、中長期的な計画を示し、明確なビジョンをもって活動していくことがこれからの課題と言えるだろう。

また、Jリーグにおいて、平田、中村が提言するスポーツビジネスに重要な「勝利」「普及」「市場」のトリプルミッションモデルの関係を当てはめると、「勝利」を達成するのは、選手であり、JPFAとなる。「市場」を形成するのは、Jリーグ事務局となり、「普及」を形成するのは、ファン、サポーターということが言える。

日本サッカー界が、好循環になるためには、JPFAとJリーグ事務局が、「労働組合」と「使用者」という労使関係ではなく、対等の立場で「勝利」を作り出す選手側、「市場」を形成するJリーグ事務局、そして「普及」を形成するサポーターが対等となるための施策であることを認識していなくてはならないだろう。

JPFAが今後日本サッカー界の発展を担えるに値する組織となるには、選手たちが、問題意識をもって、存在意義を見出していくことしかないと思われる。日

本サッカー界の中で、存在意義を見出せた時、日本のプロサッカー選手の社会的地位は向上したと当事者である選手自らが感じるであろう。そのためには、J

リーグ事務局と対等の立場になることが必要ではないだろうか。